

2014年10月25日発行

地域と協同の 研究センターNEWS 122号

巻頭エッセイ

私と 協同組合との関わり

大原 興太郎

三重大学名誉教授 コープみえ有識者理事



私が最初に協同組合に関わったのは、大学の卒業論文で「合併農協の経営分析」に取り組んだことです。滋賀県の田舎の確か昭和36年の農業協同組合併助成法（その後助成期限が次々に延長されて、1980年代のいわゆる二次合併にもつながっていく）に基づいて旧村単位の農協の合併が進みかけた頃の課題です。農協合併の背景には戦後の多くの赤字組合の教訓があり、農協事業経営の基礎を確立するための課題でした。

事業と運動の一体化とか連携はよく言われますが、事業に意識が傾きすぎるとどうしても人が見えてきません。そして組織が大きくなると絶えず官僚化する危険もはらみます。私自身の興味がより人や協同の力というところにあり、大学院では生産組合など小さな組織を研究対象にしていました。

就職では県の経済連にも内定をもらっていたのですが、最終的には研究の道を選び母校で教鞭をとることになりました。そこでの研究テーマも現場の農業者たちがどのように経済の変動を乗り越えていくのかの視点から主に稲作の生産組織がメインでした。現場での調査が多かったのでたえず農協とは関わった研究が多かったのですが、ついで協同組合そのものを対象にした研究には入りませんでした。

そして定年後、株式会社松阪協働ファームの経営を任されることとなりました。形態は株式会社ですが、生協や農協の仕事経験者が立ち上げ運営してきたこともあり、運営理念は協同組合的です。自助、自己責任、民主主義、平等、公正、連帯、正直、公開、社会的責任、他者への配慮、地域とのつながりなどを大事にしてきました。そして機会を得てコープみえの有識者理事となり5年目となります。今年から地域と協同の研究センターに関わらせてもらうにつけ、改めて現場重視の視点からもう一度協同組合のあり方を考えてみたいと思っています。よろしくお願いします。

CONTENTS

巻頭エッセイ 私と協同組合との関わり	1
第7回岐阜のつどい 報告 NPO法人ほのほのネットワーク代表 高井道子さんとその仲間のみなさんに会いに行きましょう	2
協同集会in東海—第3分科会「福祉の明日 コミュニティケアの創造」 国のうえからの自助・互助・共助に対し 地域からの支え合い・コミュニティケアを	3
地域と協同の研究センター 協同組合寄付講義 『現代社会と「地域と人のつながり」』ルポ より	4
情報クリップ	5-7
企画案内・書籍案内	8

研究センター 10月の活動

1日(水) 食と農パネル 農業生産法人「中甲」見学
2日(木) とうかい食農健サポートクラブ大人の社会見学 「魅屋銀」と「おとうふ工房いしかわ」見学会
6日(月) マイスターコース第4回
10日(金) 常任理事会
17日(金) 三重のつどい 世話人会
20日(月) 三河地域懇談会 実行委員会
21日(火) フォーラム職員の仕事を考える世話人会
24日(金) 協同の未来塾 第7回
30日(木) 岐阜地域懇談会 世話人会/理事ゼミナール第2回

第7回 岐阜のつどい —岐阜を知ろう！つながろう！ 報告

文責 事務局

NPO 法人ほのぼのネットワーク

代表 高井道子さん とその仲間のみなさんに会いに行きましょう

岐阜を知ろう！つながろう！をテーマに、9月25日 第7回岐阜のつどい「NPO法人ほのぼのネットワーク代表 高井道子さんとその仲間のみなさんに会いに行きましょう」を行いました。愛知・岐阜県から15名参加して、高山市朝日町にある認知症グループホーム「ほのぼの朝日の家」でお話をうかがい、おいしいお昼を頂きました。



↑ 利用者が昼食づくり

「ほのぼの朝日の家」とは

「認知症にならない、たとえ認知症になっても暮らせる地域づくり」を目指して活動しています。認知症になっても暮らせる地域は赤ちゃんから高齢者まで暮らしやすい地域です。そしていつまでも暮らせる地域を作る活動に取り組んでいます。住民ボランティアグループと、地域の行政、生協が協力してできたNPO法人でグループホームを拠点に、宅老所・子育て支援など活動は多岐に渡っています。山に囲まれた過疎の地域で、楽しく生きがいのある暮らしを作っています。



↑ ほのぼの朝日 古民家を活用



↑ 元気な高井道子さんより お話を聞く



↑ いただいた昼食 さつま芋のつるの煮物も

「ほのぼの朝日の家」は古民家を改装した施設です。部屋の中には、入居者の皆さんの作品、絵や書が飾ってあります。個性あふれたどの作品も、みていて飽きません。ただ「これを描いた〇〇さんは、亡くなりました」という高井さんの説明に、介護施設だったと改めて感じました。

庭の片隅には、畑があります。お昼に頂いた野菜はこの畑で栽培されたもの。もちろん、畑の手入れはみんなです。高井道子さんが、「私がこの施設をつくることになったわけ」をあつく語られている最中、説明会場になった居間のすぐそばの台所ではグループホームのスタッフと一緒に、利用者の方たちが、昼食を作っておられました。元気な人たちは、野菜を刻んだり、混ぜたり。体の自由が利かない人は、「白和えの味これでいい？」と味見の係りです。和やかな雰囲気は、グループホームではなくて、夏休み、親戚が集まった田舎の実家のような感じです。

高井さんは、どんな時でも入居者の皆さんに満遍なく声をかけられます。高井さんの笑い声が響くと、なんだかテンションがあがってきます。

高井さんのこの活動の始まりは「郡上一揆」の上映会です。小学校の体育館での大きなスクリーンの映画は住民の皆さんに喜ばれました。行政と連携しての活動は、地域では初めてのこと。この映画をやりとげた実行委員会のメンバーから「生涯この地で暮らしていかなければならない私たち、暮らしやすい地域にしていこう」の声があがり、ボランティアグループを立ち上げました。はじめは子育て支援から、老々介護の現状に対応するために、ボランティアグループのメンバーの尽力で村の所有する民家を利用した宅老所も開設。過疎地に必要なものは働く場所ということ、規制緩和も追い風になって、介護事業に参入、グループホームを立ち上げました。

施設ではなく、我が家にいるようなそんな雰囲気の「朝日の家」入居者の皆さんの暮らしのエピソードを元気な高井さんの説明で時間を忘れてきき惚れてしまいました。「頼られたら断らない」をモットーに、地域と仲良く、なくてはならない「朝日の家」。美しい飛騨の、美しい暮らしに触れることができた価値ある一日でした。

9月13日 協同集会 in 東海 —第3分科会 「福祉の明日 コミュニティケアの創造」 国のうえからの自助・互助・共助に対し 地域からの支え合い・コミュニティケアを

去る9月13日「2014協同集会in東海」が名古屋市立大学滝子キャンパスで東海の生協、ワーカーズコープ、協同組織などより224名の参加で開催されました。当日は、記念講演でNHKチーフ・プロデューサー 板垣淑子氏「無縁社会・老人漂流社会をこえて～見出す希望・絆～」があり、午後6つの分科会が行われ活発な話し合いが行われました。協同集会全体の報告書は、11月末頃に完成する予定とのことです（問い合わせは、日本労協連センター事業団東海事業本部（Tel052-222-3850））。第3分科会コーディネーターをされた橋本さんより寄稿いただきましたので、ご紹介いたします。

《 寄稿：橋本吉広氏（地域と協同の研究センター理事）より 》

第3分科会「福祉のあした コミュニティケアの創造」は、参加者38名で開催しました。この分科会は、社会保障と税の一体改革の一環としてすすむ社会保障制度改革を問い返し～医療・介護・福祉分野を中心に～、住民自身の支え合いを基礎とした社会的な保障をどう作りだしていくか、みんなで地域の協同の実践を持ち寄り、情報交換しながら考えませんかとの呼びかけで行ったものでした。

第1部「“地域包括ケアシステム”が描くコミュニティケアとは」

冒頭、NHK「シリーズ認知症“わたし”から始まる～検証・オレンジ・プラン」（2013年7月3日放送）を録画で見ました。世田谷区のあるクリニックを舞台に、訪問看護師を中心として実践される「認知症初期集中治療」・「地域包括ケアシステム」など、いま国が推進している施策の現場を知りました。引き続き、活動発表として1）杉浦直美さん（南医療生協非常勤理事）から、地域包括ケアシステムのモデルの一つとして厚生労働省も注目する、南医療生協の住民どうしの支え合いを基礎にした病院・診療所・介護事業所との連携による“ささえあいたすけあい 地域だんらんまちづくり～「南生協よって横丁」づくり”について紹介いただきました。また2）山本三樹雄さん（地域包括支援センターコープ豊橋中央管理者）からは、コープあいちが豊橋市から委託されている同センターの活動を紹介し、私たちの地域における地域包括支援センターの役割の大切さを紹介いただきました。コーディネーターは仲田伸輝さん（地域と協同の研究センター）、橋場美咲さん（金城学院学生）が担当しました。



第2部「地域での協同・協働・協同組合の実践から学び合う」

まず全国的な視点に立って、コメンテーターの坂林哲雄さん（日本労協連副理事長）から「介護保険制度の改正を逆手に取った運動を！」の提起を受けたあと、実践報告1）田口幸雄さん（名古屋市緑区森の里荘自治会副会長）から、自助・互助が強く求められる今日の状況を地域の自治会としてどう受け止めるかという視点から、「生活安全調査票」「ひとり暮らし高齢世帯安心サポート事業」などの自治会活動について事例報告がされ、これら活動には関心も高く質問も出されました。また2）玉井昌代さん（コープあいちくらしの会事務局）は、介護保険改正という状況のなか、“お互いさまの気持ちで助け合えるといいね”と活動してきた私たちは、どこに向かっていくか試される。高齢者だけではなく全世代に向けた取り組みが必要で、制度、法律、公的なものに影響を受ける部分もあるが、もう一方、そうでないところでどうしていくか考えたいと語りました。さらに3）山崎亜土さん（愛知県高齢者生活協同組合常任理事）は、愛知高齢協における高齢者・障がい者（児）支援・外国人支援の取り組みを紹介し、今後必要な住まいについて、「どんな人にも住みやすい地域」として、①声かけ・見守りの大切さ→「おはよう」「おかえり」の挨拶から始まる、②一人ひとりの「役割」があるということ、③年齢、障害種別にかかわらない「ノーマライゼーション」の考えを示し、憲法9条、25条をくらしの中に活かしていきたいとまとめました。コーディネーターは橋本吉広（協同総研常任理事）、熊谷明子さん（金城学院大学学生）が担当しました。

最後に、コメンテーターの坂林哲雄さんが、私たちが掲げる「コミュニティケア」とは、市民のニーズがあって、これを実現するためにみんなの力で作り上げるものであると強調しまとめました。こうした趣旨の集まりを今後も持って行きたいとの呼びかけが了解され閉会しました。

2014年度下期 名古屋市立大学

地域と協同の研究センター 協同組合寄付講義 『現代社会と「地域と人のつながり」』 ルポ より

寄付講義 スタート

90人履修登録！（薬学・8人、経済・35人、人文社会・40人、芸術工学・4人、看護・3人）
毎回変わる講義内容に、学生の意識も高揚！

9月25日より、名古屋私立大学で寄付講義が始まりました。その状況を事務局発行のルポより報告します。

「寄付講義」とは＝大学が準備する講座でなく、講師を派遣し、講義を提供（寄付）するかたちで開講されます。今回は、名古屋市立大学教授の向井清史先生の科目として開講することとなりました。13名の講師を大学生協、南医療生協、社会福祉法人、NPO法人、JA愛知中央会、コープあいち等が講師を担当します。科目のタイトルは「現代社会と地域と人のつながり」です。3つのテーマ：テーマⅠ「キャンパスライフと人のつながり」、テーマⅡ「ライフサイクルと人のつながりが果たすべき役割」、テーマⅢ「地域セーフティーネットと人のつながり」に分けて、「人と人のつながりの実相を解説し、その意味をみんなで考えていきたい」と来年1月15日まで15回講義を行います。

来年度以降も継続することを相談しています。

第1回目（9月25日）

向井先生より、協同の概念、近代社会の成り立ちとリスク、市民協同のための制度、「新しい公共」、そして講義のセッションごとの内容の説明がされました。履修登録が64名（4月当初50名）でしたが、当日受講者が増えて91人になりました。



第2回目（10月2日）

2回目より寄付講義を担当する講師による講義が始まりました。第2回は全国大学生協連東海ブロック坂田さんから、協同組合と株式会社の違い、協同組合の歴史、大学生協と学生生活の関わり、大学生活で起きるリスクを支える保障制度などについて講義がありました。登録学生は初日とほぼ同じ人数で90人となりました。学生も真剣に臨んでいました。

第3回目（10月9日）

大学生協東海事業連合森田さんより、キャリア教育とは、その支援アプローチ、大学生の就職活動で考えるべきこと、それに関わっての大学生協の活動紹介などの講義がありました。大学での協同学習の考え方などの話は、大変興味深く熱心に聴講をしていました。



第4回目（10月16日）

消費者被害防止ネットワーク東海・花井さんより、「若者が受けやすい消費者被害とその防止」—具体的被害の内容と対策、そして消費者市民社会の実現に向けて—クイズをまじえての「売買契約」に対する基礎知識、知っておきたいクーリングオフ制度、そして消費者問題の歴史と結び付く消費者保護の法整備の歩みなど学生の陥りやすい事象について分かりやすく、質問もかわしながらの講義がありました。教室いっぱいの熱気！



情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(税別)
<p>▶多様な生き方を支える 職場環境を目指して</p> <hr/> <p>COOP「生協運動」改題 NAVI</p> <p>2014.10 751</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>▶多様な生き方を支える職場環境を目指して</p> <p><僕らは商品探偵団> 歯ごたえコリコリ 無漂白かずのこ</p> <p><声に応えた商品レポート♪> パッケージへのカリウム表示</p> <p><全国のラブ・コープ・キャンペーン♪ラブコが行く> コープみらいのコープ会で“おいしいおしゃべり”してきたよ！</p> <p><進化する生協の店づくり> 京都生協 コープ二条駅</p> <p><こんにちは！生協男子ですっ！> いわて生協 Belf山岸店長 藤村正人さん</p> <p><宅配・現場レポート> ユーコープ 安全運転のための新入職員教育</p> <p><つながろうCO・OPアクション情報> おおさかパルコープ 大阪よどがわ市民生協 ならコープ 釜石市社会福祉協議会</p> <p><生協人の基礎知識> 第7回 生協が取り扱う商品</p> <p><この人に聴きたい> 料理研究家 土井善晴さん</p>	<p>2014年 10月 A4版 35頁 定価 350～円</p>
<p>▶ 歩く 足から考える健康づくり</p> <hr/> <p>医療生協の情報誌 COMCOM</p> <p>2014.10 566</p> <p>日本医療福祉生活協同組合 連合会</p>	<p>▶特集 歩く 足から考える健康づくり</p> <p>インタビュー セーフティウォーキングのすすめ 医療法人貴島会 ダイナミックスポーツ医学研究会 土井龍雄</p> <p>[バンビのつぶやき 22] 人に優しく 本のおもちゃ屋 店主 中根桂子</p> <p>[住まう 22] 住まいと生活支援で地域居住を支える（後編） 空き家を活用した低所得高齢者住宅 NPO法人自立支援センターふるさとの会</p> <p>[TOMOそだち 22] 「朝、熱が出ていたらどうしよう・・・」働く女性を病児保育でサポート NPO法人ノーベル 代表 高亜希</p> <p>[協同のある風景] 221 無いものはつくればよい 困難はともに解決すればよい 一支部が中心となりNPO法人を設立 NPO法人すずか希望の里 みえ医療福祉生協</p>	<p>2014年 10月 A4版 40頁 定価 400円</p>
<p>▶ 海から贈られた 協同社会</p> <hr/> <p>社会運動</p> <p>2014. 9 414</p> <p>市民セクター政策機構</p>	<p>特集 海から贈られた協同社会 協同組合の星・岩手重茂漁協</p> <p>新たな連帯の模索 重茂漁協の軌跡から何が見えたのか 濱田武士</p> <p><協同と自助>を生み出した漁民と風土 伊藤隆一</p> <p>重茂は小さくてユニークな漁村 長男がオヤジの後を継ぐ習い 北田敦夫</p> <p>『美味しんぼ』と重茂の再建プラン 良質な食材・反原発・高収入を目指して 高坂菊太郎</p> <p>「重茂全滅」の第一報と支援活動 生協がやれたこと、学んだこと 熊谷由紀子</p> <p>磯と地球 港千尋</p> <p>共同性の記憶と再現 重茂漁協との連携の意義と震災後に学んだ事 加藤好一</p> <p>商品たちの素性 合成洗剤とせっけん ワーカーズコレクティブのもの</p> <p>世界の多彩な協同組合（第1回）日本唯一の楕円的な運動体</p> <p>使い捨て時代を考える会／安全農産供給センター 吉永剛志</p> <p>女性作家たちの声（第1回）</p> <p>なぜ、私は屠場を撮影したのか 瀬瀬あや</p> <p>隠れキリタンと原発の国 津島佑子</p> <p>介護保険以降のワーカーズコレクティブ（第1回）</p> <p>社会的文脈の変容とそのインパクト 上野千鶴子</p> <p>NAMを語る（第1回） 積極的なものへの態度変更 柄谷行人</p> <p>社会運動リニューアルのご挨拶</p>	<p>2014年 9月 B5版 127頁 定価700円</p>

<p>▶ 若年層の ライフスタイル</p> <hr/> <p>生活協同組合研究</p> <p>2014. 10 465</p> <p>(財) 生協総合研究所</p>	<p>■ 巻頭言 多数決は「議論が煮詰まって」から・・・ 天野晴子</p> <p>▶ 特集 若年層のライフスタイル</p> <p>変わりゆく若者の希望 玄田有史</p> <p>「平成の家族」は存在するのか? 千田有紀</p> <p>変化の兆しを見せる「今どきの若者消費」 白鳥和生</p> <p>イマドキの若者の情報活動 橋元良明</p> <p>2013年全国家計調査から見た20・30歳代組合員の消費生活 宮崎達郎</p> <p>■ 海外情報</p> <p>第11回国際サードセクター学会会議参加レポート 山崎由希子</p> <p>フィンランドの福祉をめぐる近況とその前提 ① 鈴木岳</p> <p>第三回アジア社会的企業研究会 参加報告 近本聡子</p> <p>■ 時々再録</p> <p>日本記者クラブ研究会 「貧困対策は必要か」 白水忠隆</p> <p>■ 新刊紹介</p> <p>アルベルト・イアーネス著 佐藤鉦毅訳 『イタリアの協同組合』 大津荘一</p> <p>編集:中川雄一郎・杉本貴志、監修:前労災協会</p> <p>『協同組合 未来への選択』 伊丹正和</p> <p>田口久美子 『書店不屈宣言』 姜 政孝</p>	<p>2014年 10月 68頁 B5版</p>
<p>▶ 地域ブランドの 戦略的活用</p> <hr/> <p>月刊 J A</p> <p>2014.10 716</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 地域ブランドの戦略的活用 ～地理的表示保護制度への取り組み</p> <p>【解説】 特定農林水産物等の名称の保護に関する法律 (地理的表示法)について 農林水産省食料産業局新事業創出課</p> <p>【提言1】 地理的表示保護制度の導入に向けたJAグループの取り組み JA全中農業対策部 浅野 卓</p> <p>【提言2】 地理的表示制度への戦略的対応の方向性 中曾根佐織</p> <p>【紹介】 欧州連合(EU)における地理的表示(GI)制度の活用について</p> <p>・きずな春秋 ー協同のこころー 童門冬二</p> <p>・地方紙ニュース 第43回</p> <p>一品一村 今は昔 江藤嘉寿 (大分合同新聞社)</p> <p>・直言! JAへのメッセージ 「食のインフラ」としての惣菜産業 堀富士夫 (一般社団法人日本惣菜協会会長)</p> <p>・JAトップインタビュー 農家としての経験をJAの運営に生かす 秋田県JA秋田やまもと 会長 米森壽美</p> <p>・地域・支店から『戦略』を考える</p> <p>1支店1協同活動で元気な地域をつくる 西井賢悟</p> <p>・展望 JAの進むべき道 黒田官兵衛に学ぶ 太田実</p> <p>・海外だより [DC通信] 41 目前に迫った中間選挙 古林秀峰</p> <p>・見せましょう、協働の底力!</p> <p>地域の宝物のすてきな巡り合い (前編) あまおうプレミアムスパークリングワイン (福岡県) 青山浩子</p> <p>・トピック</p> <p>農作業危険箇所改善コンクール実施を決定 JA全中営農・経済改革推進部</p> <p>・次代へつなぐ協同実践塾</p> <p>・持続可能な農業の実現 農業者の命を守る農作業安全の取り組みと労災保険の加入促進について JA全中営農・経済改革推進部</p> <p>・豊かで暮らしやすい地域社会の実現 食農教育から発展した子育てのお手伝い JA全中くらしの活動推進部</p> <p>・10年後 JAが存続するために 資産査定管理態勢の改善・強化に向けて JA全中経営指導部</p>	<p>2014年 10月 A4版 64頁 年間購読料 4,800 円(送料込)</p>

<p>▶働きかける高齢者</p> <hr/> <p>協同の発見</p> <p>2014.9 262</p> <p>協同総合研究所</p>	<p>■巻頭言 元気高齢者という括り 片岡輝 (ワーカーズコープ常勤顧問・詩人・東京家政大学名誉教授)</p> <p>■ 特集 働きかける高齢者 ～健康、仲間、趣味、地域、仕事づくりから～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島市「協同労働」プラットフォーム事業 ー実施にいたる経緯と意義ー 吉富啓一郎 (広島県立大学名誉教授) ・沖縄の高齢者就労のこれから 小林甫 (沖縄大学教授) ・インタビュー 「元気な高齢者の健康維持体操と介護予防を聞く」 高浜和行 (墨田いきいきプラザ所長) 小原祐一 (江東ふれあいセンター所長) 特集編集部 (聞き取り) ・座談会 「元気」高齢者の就労支援と介護予防 坂林哲雄 (日本労協連副理事長) 川辺晃司 (労協センター事業団 総務部長) 高成田健 (労協センター事業団 中四国事業本部長) <p>■連載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協同組合制度の爆破破壊か、それとも希望への脱出か (2の2) ーICA第三原則に関するガイドンス・ノート第一稿の検討ー 島村博(協同組合法制化市民会議 法制・国対監事／協同総研主任研究員) ・自然エネルギー・協同組合方式の探求 ⑧ バンドン小水力アソシエーションの組織憲章 藤本穰彦(九州大学大学院工学研究員特任助教／会員) 島谷幸宏(九州大学大学院工学研究院 教授) 	<p>2014年 9月 B5版 87頁 定価1300円</p>
<p>▶地域の創生と 農村医学</p> <hr/> <p>文化連情報</p> <p>2014.10 439</p> <p>日本文化厚生農業協同組合 連合会</p>	<p>農協組合長インタビュー (10) 地域に密着した地域農協として 地域の農政と農村医学</p> <p>第63回日本農村医学会学術総会開催にあたって 二木学長の医療時評 (125)</p> <p>健康寿命延伸で医療・介護費は抑制されるか? ー『平成26年版厚生労働白書』を読む</p> <p>治験を実施できる病院であるということ</p> <p>ノバルティス社「ディオバン」問題を考える (I)</p> <p>岐路に立つ日本のエネルギー政策 (2)</p> <p>原発の経済性</p> <p>福島からはじまる新たな地域主導による再生エネルギー事業の取組み</p> <p>アフガニスタンの戦禍はなぜ止まないのか</p> <p>高齢者住まい法改正とサービス付き高齢者向け住宅 (下)</p> <p>JPEPAの神話を超えて (3)</p> <p>日本はフィリピン看護師を受け入れて満足しているのだろうか?</p> <p>岡田玲一郎の间歇言 在宅重視のインセンティブはなんだ?!</p> <p>平成26年度医薬品価格交渉と今後の購入対策の展望と未来像</p> <p>デンマーク&世界の地域居住 (65)</p> <p>イギリスの高齢者施設:多床室ケアホーム</p> <p>カーサ・ドルチェ ー A型社会的協同組合ソチエタ・ドルチェ</p> <p>野の風●券売機の進化</p> <p>ゲーテンターク、ドイツ (1)</p> <p>レッシングの『賢人ナータン』ーあるいはトルコ</p>	<p>古谷茂男 藤原秀臣 二木立 鈴木かおり 片平洸彦 大島堅一 レシャード・カレット 小磯明 平野裕子 岡田玲一郎 佐治実 松岡洋子 小磯明 古川啓一 鶴殿博喜</p> <p>2014年 10月 B5版 80頁 文化連情報 編集部 03-3370- 2529 *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究機関などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

子ども・子育て支援新制度で利用者ニーズをどう具体化するか

～日本の現状と諸外国の動向から～

- 2014年11月6日(木)13:30～16:30
- 京都駅前 キャンパスプラザ京都4F第4講義室

子ども・子育て関連三法が
2015年度から本格実施に

昨年度、生協総研では幼児教育・保育施設における親の協同・参画を促進しようと、この分野の先進12か国を対象に、保育の質や利用者の満足度を高める取り組みについて調査を行いました。日本の現状をふまつつ、親の参画の可能性に着目した諸外国の取り組みをみながら、良いところを学び批判的に検討する場にしたいと考えます。全国の生協関係のみならず、地域活動されている方々のご参加をお待ちします。(HPより)

プログラム
16:30終了予定

基調報告：保育における親の権利——「共同生産者」と位置付ける諸外国——
国際事例紹介：ノルウェー、フランス、イタリア、韓国、カナダ、アメリカ
※ 各国の報告者は生協総研主宰の「親の協同国際比較研究会」メンバー(研究会の成果である勁草書房刊行『親が参画する保育をつくる』の執筆陣)です。 質疑応答

【問合せ先】 公益財団法人生協総合研究所 担当【中村・近本】 【主催】 公益財団法人生協総合研究所

TEL. 03-5216-6025 FAX. 03-5216-6030 E-mail: ccij@jccu.coop

【参加申し込み】 申込書に記入の上、FAXにてご送付 詳細⇒http://ccij.jp/activity/annai140901_01.html

書籍案内

文春新書 税金を払わない巨大企業

著者：富岡幸雄 定価：本体700円＋税

判型：新書判192ページ 発売日：2014年09月19日

担当編集者より

法人税が20%台まで下げられるのに、国民に負担を強いる消費税は、来年10月には10%に上がる予定です。しかし、巨大企業が正しく納税すれば、消費増税分をはるかに上回る税収が得られるはずなのです。戦後間もなく国税庁に勤務し、その後は中央大学で税務会計学を創始、50年以上税研究に身を捧げた著者による渾身のレポート。法人税38.1%の時期、驚くべき低負担率だった35社の企業名、そのカラクリも明かされます。

目次

- 第1章 大企業は国に税金を払っていない
- 第2章 企業エゴむき出しの経済界リーダーたち
- 第3章 大企業はどのように法人税を少なくしているか
- 第4章 日本を棄て世界で大儲けしている巨大企業
- 第5章 激化する世界税金戦争
- 第6章 富裕層を優遇する巨大ループホール
- 第7章 消費増税は不況を招く
- 第8章 崩壊した法人税制を建て直せ！（文芸春秋BOOKSホームページより）



2014年10月25日発行(毎月25日発行)
定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)
発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
代表理事 西川幸城
〒464-0824 名古屋市中千種区稲舟通1-39
TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315
E-mail AEL03416@nifty.com
HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>

研究センター 11月の活動予定

- 4日(火) 事務局会議
- 7日(金) 環境パネル 新名古屋火力発電所見学
- 8日(土) 第3回研究奨励助成 報告会(岐阜会場)
- 10日(月) マイスターコース第5回/NEWS編集委員会
- 12日(水) 暮らしを語りあう会
- 13日(木) 食と農パネル世話人会
- 14日(金) 常任理事会
- 18日(火) フォーラム職員の仕事を考える世話人会
- 20日(木) 三河地域懇談会 拡大実行委員会・認知症学習会
- 21日(金) 第8回協同の未来塾
- 26日(水) NEWS 123号発送